

DSR-BL形 可動コイル形速度継電器

Type DSR-BL Moving Coil Type Speed Relay

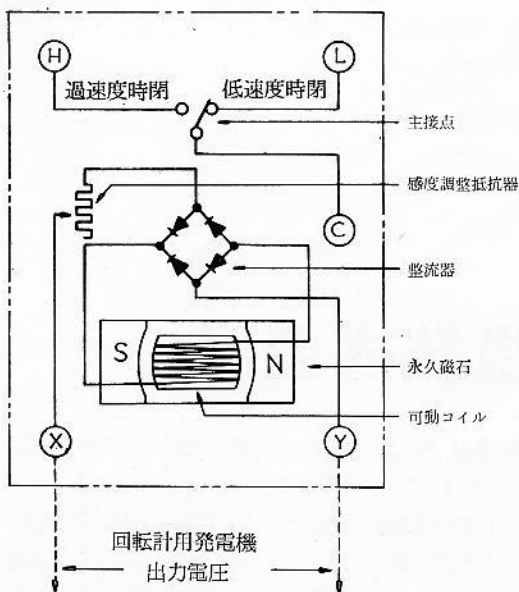
本器は、回転機速度検出に使用される速度継電器で、制御用としても、また保護用としても使用することができます。

構造と動作

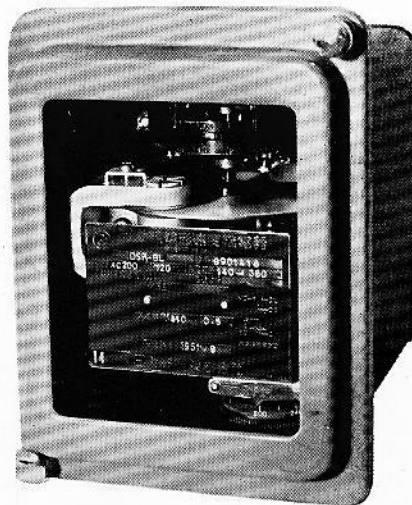
本器は、回転計の軸に取り付けられた回転計用発電機 (Tachometer Generator) の出力が回転機の回転数に比例することを利用して直流の電圧継電器を駆動し、回転数を検出するもので、可動コイル形の駆動要素と、誘導円板形の制動機構から構成されています。

この駆動要素は、永久磁石の両極間に置かれた円柱鉄心と、それを囲むコイルが回転し得る構造で、可動コイルには回転計用発電機の出力電圧を整流して直流電圧として加えます。また制動機構とは、特殊な連結機構によつて結合し、可動コイルの運動を誘導円板の円滑な回転に変換しているため、安定した動作と確実な接触を得ることができます。

第3図には構造の概略を示しますが、接点機構は誘導円板の可動軸上に可動接点を取り付け、左右にそれぞれ固定接点を配します。すなわち本器の接点は二重動作形とし、速度上昇時閉路する接点と速度下降時閉路する接点の二つを有します。



第2図 内部接続図 (裏面)

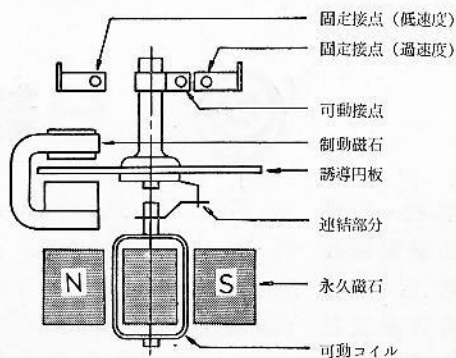


第1図 DSR-BL形可動コイル形速度継電器 (埋込形)

接点容量は D.C 100 V 0.5 A です。

動作速度整定

動作速度の整定は、正面下部の可変抵抗器により行ないますが、継電器上部のレバーによつて二つの固定接点はその位置を自由に変えることができ、整定値に対して過速度および低速度時に動作させるよう整定することができます。すなわちレバー目盛は可変抵抗器で整定した値に対する倍数を示し、たとえば抵抗器を1,000 R.P.Mに整定し、過速度側のレバーを1.2、低速度側のレバーを0.8に整定すれば、回転数が上昇して整定値の1.2倍、すなわち1,200 R.P.M以上に達すれば端子 C-H間が閉路し、逆に回転数が下降して整定値の0.8倍の800 R.P.M以下になった場合には端子 C-L間を閉路します。



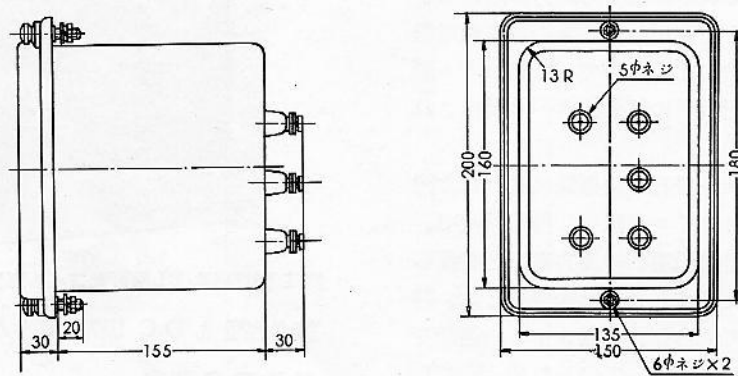
第3図 内部構造図

DSR-BL形可動コイル形速度継電器標準定格表

形 式	定 格	速 度 調 整 範 囲	備 考
DSR-BL	110 V または 220 V	定格速度の 0.5 ~ 1.5	埋 込 形

- (注) 1. 重量は約 3.9 kg です。
2. 表面丸形、引出形も標準として製作しています。

外 形 寸 法



第 4 図 DSR-BL形 継電器外形寸法図 (埋込形)

—ご注文に際しては次の事項をご指定下さい—

1. 形 状: 埋込形、引出形、表面丸形の別
2. 定 格: 定格速度、出力電圧 (定格速度にて) およ
び定格電圧 110 V、220 V の別
3. そ の 他: 標準外の仕様がある場合